

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2019.5

Vol. 79

〒165-8906 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.79

●編集・発行／総合東京病院

特集 — くも膜下出血

突然死の原因となる 「くも膜下出血」とその予防方法



総合東京病院
脳神経外科
脳神経疾患センター長
森 健太郎

脳卒中の一つであるくも膜下出血は恐ろしい病気として有名です。働き盛りの方が突然くも膜下出血で倒れて亡くなる、あるいは障害が残ってしまう病気です。

今回は、くも膜下出血について分かりやすく説明するとともに、その予防方法について解説します。

■くも膜下出血とは？

脳は硬膜とくも膜と軟膜という3枚の膜で覆われています。くも膜の下には脳を栄

養する動脈が走行しています。くも膜下出血のほとんどは、その脳動脈にできた“血管の瘤”すなわち脳動脈瘤が破裂して出血する病気です(図1)。太い脳動脈が破たんして出血するため脳のダメージが大きいのです。実際に患者さんの10%は病院にたどり着く前に亡くなっています。以前は突

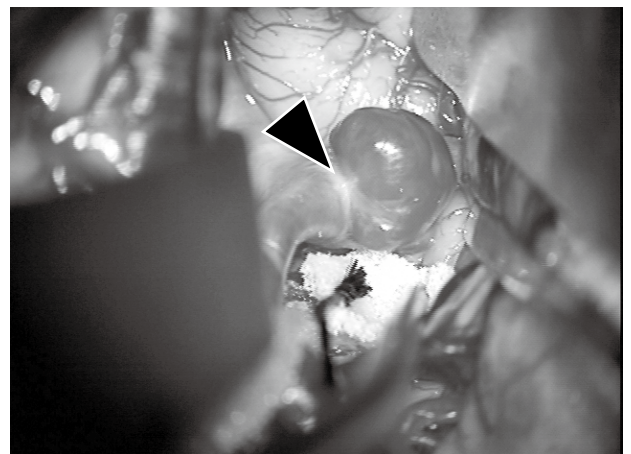


図1 実際の手術中に撮影した脳動脈瘤(矢頭)



PET-CT装置

PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 ※総合東京病院の来院申込者

通常料金 108,000円 ➡ 優待料金 **86,400円(税込)**

※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学課へ

☎03-3387-5462

受付時間/月~土(日・祝除く)
AM 9:00 ~ PM 5:00

特集

突然死の原因となる「くも膜下出血」とその予防方法

突然死の原因は心臓の病気とわれていましたが、実はくも膜下出血も突然死の原因の一つなのです。くも膜下出血は40歳以上から多くなり、やや女性に多い病気です。多くの場合は突然の激しい頭痛で発症します(図2)。何となくではなく、何時何分と分かる激しい頭痛で吐く場合も多いです。運よく病院にたどりついて治療をしても、半数以上の方が亡くなったり障害が残ったりします。また認知症が残って仕事に復帰できない場合も多いのです。



図2 くも膜下出血の特徴は突然の頭痛と吐き気です。

■くも膜下出血の治療は？

くも膜下出血になってしまったら、まず出血源の脳動脈瘤の処理を早期に行います。動脈瘤が再破裂すると死亡率が急に上がるからです。動脈瘤の治療方法にはカテーテルという管を脳の動脈まで誘導して動脈瘤の内側からコイルという金属で埋めってしまう血管内治療という方法があります。もう一つは開頭術を行って動脈瘤を直接に金属のクリップで止めてしまうというクリッピング術という方法があります。どちらの治療法が良いかは、脳動脈瘤の専門医が決定します。

■くも膜下出血にならないためには？

くも膜下出血は恐ろしい病気ですから予防できれば一番です。今はMRIという痛みのない検査で、この怖い脳動脈瘤が破裂する前に見つけることができます(図3)。日本人の100人中3人から5人に動脈瘤が見つかります。40歳になったら、特に高血圧の方、家族にくも膜下出血の方がいらっしゃる場合は脳ドックの受診をお勧めします。

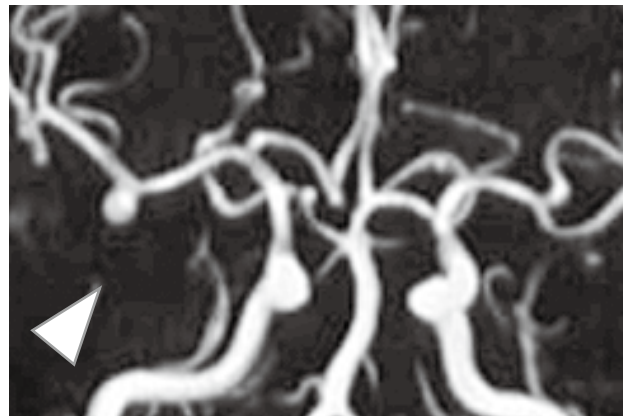


図3 脳ドックで発見された脳動脈瘤(矢頭)

総合東京病院では脳ドックを実施しています。もし見つかったら脳動脈瘤の専門医による最新の治療を受けることが可能です。心配な方は脳ドックを受けてみてはいかがでしょうか。

